

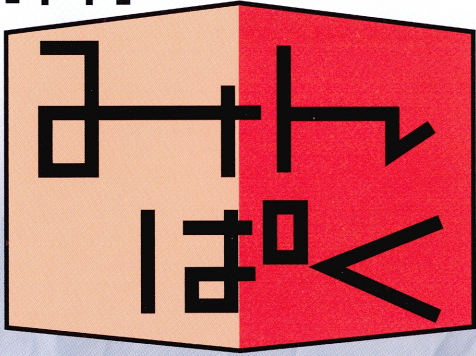
月刊

昭和52年10月5日第1号刊行 ISSN0386-2283  
平成20年12月1日発行 第32巻第12号通巻第375号

国立民族学博物館

2008

12



特集

# 手塚治虫の遺したものの



# 「楽園」を撮る

三好 和義

みよし かずよし／大学卒業後、株式会社「楽園」設立。タヒチ、モルディブ、サハラ、ヒマラヤ、南極など世界各地で「楽園」をテーマに撮影を続け写真展を多数開催。写真集「RAKUEN」で木村伊兵衛賞を受賞。作品はジョージ・イーストマン・ハウス国際写真博物館に永久保存。国際交流基金買上げの作品「日本の世界遺産」は世界各地の写真展で紹介。2004年藤本四八写真文化賞を受賞。四国八十八カ所の作品は切手化されている。

僕は今までに六〇カ国以上を訪れ楽園をテーマに写真を撮ってきましたが、そのきっかけは大阪万博です。小学六年生の夏休み、大阪の親戚の家に泊まって二週間以上、毎日朝早くから最終まで通って全パビリオンで写真を撮りました。万博で世界各地の自然や文化に惹かれ、カメラマンになれば世界を回れると考えたのです。

その後、東海大学在学中に練習船で南太平洋を回ったとき、ポナペ島で見た踊りに沖縄文化とのつながりを感じたりして南国が好きになり、在学中から楽園というタイトルで作品を発表してきました。僕にとつての楽園は南国から始まったのです。しかし

今では、世界中で楽園を探しています。聖地、極楽浄土、桃源郷などと言い換えられるでしょうが、要するに僕が興味のあるところが楽園なのです。

最初は風景の美しいところが楽園と思っていましたが、ハワイのビショップ博物館を訪れたときに、ポリネシアへの人の拡散史やフラに興味をもち、精神的な世界も楽園の条件と考えるようになりました。ポリネシアの人びとの文化のつながりを見るにつけ、彼らがカヌーで太平洋に乗り出したのも、楽園を求めたためだろうかと考えたりします。

また、郷里が徳島でお遍路さんが身近だったこと

もあり、四国八十八カ所の写真も撮ってきました。空海にとつての理想世界、楽園を知りたいからです。中国やチベットのお寺や遺跡を訪れているのも、僕のなかでは空海つながりです。

こうした精神世界を撮るのに、写真技術の進歩が寄与しています。フィルムだと現像までに時間がかかり気持ちが冷めてしまいが、デジカメだとその場で確認できる。この即時性は精神的な世界を撮るのに不可欠です。ハワイでもフラを撮って、あれこれだと思つて自分の気持ちがどんどん高まり、踊り手と自分が一体になれる、参加しているという実感もしながら撮影できました。

フィルムやメモリーの感度が高まったことも、写真が精神的なものに追いついてきた理由です。一五年前のこと、新月の夜に、ここだと思つた方角に向けて三時間ほどシャッターを開放し、星明かりだけで富士山が写った経験があります。人には見えないものが写る、これは衝撃でした。デジタルだともっと優れていて、松明の光だけでおこなう伊勢神宮のお祭りでも、神饌の伊勢エビと昆布が写りました。まさにスピリチュアルなものが写ると感じました。こういう世界に迫っていける写真技術の進歩に、僕は大きな期待をもっています。



目次  
DECEMBER 2008 12  
月刊みんぱく

- 01 エッセイ 世界へ世界から  
「楽園」を撮る  
三好 和義
- 02 特集 手塚治虫の遺したもの  
手塚マンガの世界に見る  
異文化接触と相対化の視点  
久保 正敏  
ストーリー・マンガの革新性  
竹内 オサム  
マンガ産業の広がりと「鉄腕アトム」  
中野 晴行  
「リボンの騎士」以前・以後  
藤本 由香里

- 科学・SFマンガと手塚治虫  
村上 知彦
- 08 モノ・グラフ  
みんなで持ち寄った「おかね」の展示  
近藤 雅樹
- 10 地球ミュージアム紀行  
ヨルダンで博物館をつくる  
森田 恒之
- 11 表紙モノ語り  
鳳凰  
慥永 真佐夫
- 12 みんぱくインフォメーション
- 14 万国津々浦々  
子連れフィールド・ワーカー奮闘記 ルーマニア篇  
トランシルヴァニアで息子と暮らす  
大塚 奈美
- 15 人生は決まり文句で  
アイヌ アナクネ ピリカ  
佐々木 利和

- 16 外国人として生きる  
ふたつのことばで落語がもっている  
笑いのパワー全開！  
藤井 幸之助
- 18 歳時世相篇  
◎12月の犠牲祭  
動物たちの受難  
新免 光比呂
- 20 生きもの博物誌  
武器になった生き物  
山中 由里子
- 22 フィールドで考える  
呪術から見る民族関係  
一東マレーシアの華人と先住民  
市川 哲
- 24 みんぱく ウィークエンド・サロン  
研究者と話そう  
次号予告・編集後記



# 手塚治虫の遺したもの



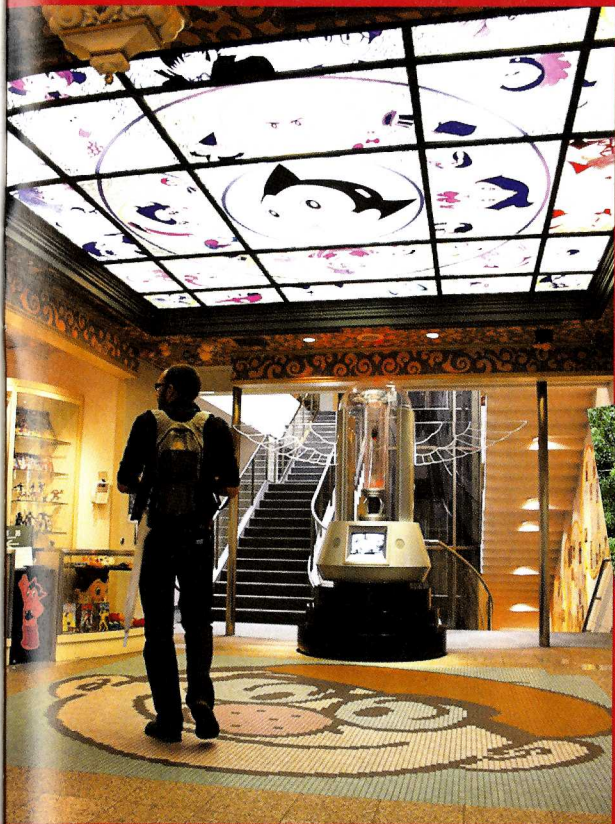
宝塚市立手塚治虫記念館入口にある火の鳥の像



宝塚市立手塚治虫記念館



宝塚市立手塚治虫記念館には外国人報道関係者もしばしば訪れる



今年手塚治虫の生誕八〇周年であり、民博のお隣にある、児童文学・児童文化に関する研究と情報資料の国内センターである大阪府立国際児童文学館をはじめ、多くの研究機関や博物館で記念展示や記念事業が催されてきた。手塚は、SF、サスペンス、怪奇もの、少女向け、青年向け、などその形式はさまざまであるが、柱となるテーマのひとつとして、さまざまな異者との接触、衝突、共生の可能性、アイデンティティとは何か、を一貫して取り上げてきたと考えられる。民族学・文化人類学の永遠のテーマとも重なるこうした視点で、本誌でも、手塚が描いてきた世界、手塚が遺したものについて考えてみたい。

## 宝塚市立手塚治虫記念館

〒665-0844 宝塚市武庫川町7-65  
TEL 0797(81)2970

- 開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 開館・休館日 毎週水曜日休館(祝日と重なる日、8月中の水曜日は開館)※その他、年末休館、館内再整備休館、臨時休館、開館日あり
- 詳しくはホームページ等でご確認ください
- 入館料 ※〈 〉は団体(30人以上)
- 大 人 500円 〈400円〉
- 学生(中学生・高校生) 300円 〈240円〉
- 小 人(小学生) 100円 〈 80円〉

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳提示の場合は無料  
60歳以上の宝塚市民は無料(要証明提示)  
上記手帳所持者が必要とする介護人は無料  
のびのびバスポート、クローバーカード提示の場合は無料  
<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/Tezuka/>

## 手塚マンガの世界に見る異文化接触と相対化の視点

久保 正敏  
(くほまさとし)

本館文化資源研究センター

を見ることが出来る。この背景には、米ソ冷戦の深化と核開発競争、民族運動の高まりといった時代状況もあつた。

### 手塚治虫の問い

初期の代表三部作を例にとれば、「口ストワールド」に登場する植物人間女性、「メトロポリス」の両性具有ロボット、来るべき世界」の新人類、などがそれぞれ現人類の対立項としての異者である。これら作品は、過去・現在・未来と舞台は異なるが、文明の破壊という悲劇的結末を迎え、異者との共生、あるいは分離のどちらかでない、地球には平和がもたらされないことを人びとは字ぶ、という寓意と読める。

「ジャングル大帝」もまた、戦争と平和、善と悪、理想と現実、科学と呪術、文明と未開、希望と挫折などさまざまな対立項を含んだ壮大な物語だが、人間と動物という異文化共生もテーマのひとつである。主人公レオはさまざまな対立項を越えた共生の理想郷を作ろうとするが、それらを超越した時の流れにはあらがえない、という諦観で締めくくられる。当時のステレオタイプなアフリカ観、共生とはあくまでも擬人化された動物との共生という夢想形に過ぎない、などの弱点をもつものの、そこには理想主義と虚無主義がないまぜになつた手塚の世界観が示されている。

「鉄腕アトム」でも、人間トビオを模倣すべく作られたアトムのアイデンティティ・クライシスが描かれ、遂には人間とも対立するアトムに読者は驚くとともに、孤児でもあり居場所のないアウトサイダー、単なる正義の味方ではないアトムの弱さに惹かれ、人間たちとロボットたちそれぞれ悲しみに涙するのだ。「ジャングル大帝」と同様にさまざまな対立項が含まれた長い長い物語のなから、わたしたち読者は、多くの対立項がからみ合った世界の複雑さや、対立する二項のどちらかに与することの切なさ、虚しさを読み取り、いわば、相対化の視点の大切さを知つたように思う。

「ロック冒険記」(2011年)「キヤブテンKen」などでも、多様なエイリアンに仮託しつつ、異文化理解と共生はあり得るのか、というテーマが示され、物語の最後に主人公の死、あるいは文明の破壊という供犠を捧げたとしても、理解と共生はえられないかもしれぬと考えさせられる。これら長編作品の多くは、ハッピーな大団円を迎えることなく、読者への問いかけで終わる。マンガの世界での

コミュニケーションの姿を借りながら、人間は歴史から学ぶこともなく、一体幾度、欲望と憎悪と戦いと悲劇の連鎖を繰り返すのか、にもかかわらず自然を含む地球そのものは人間の愚かさをあざ笑うように継続していく、という諦観を含んだ問いは、「火の鳥」や「ブッダ」でも示される宇宙観、宗教観にも通じるところ。手塚の問いは、今でも我々に突きつけられている宿題ではないだろうか。

### 戦後が終わった

一九八九年二月九日に手塚治虫死去の報に接したとき、その前月の昭和天皇崩御と合わせて、これで昭和が終わった、あるいは、戦後が終わった、という感慨を覚えたのはわたしだけではない。団塊世代のわたしのみならずたくさんの人びとが、多くの影響を手塚マンガから受けたはずだ。そのなかには、異文化とのつきあい方に関する、手塚の考え方に何らかの示唆を受けた者も多いのではなからうか。

手塚の死を受けて同年四月に発刊された「朝日ジャーナル臨時増刊号 見る・読む・考える手塚治虫の世界」では、ベスト二〇作品を選び、さまざまな識者が解説を加えている。この二〇作品にも、異文化接触と対立、その止揚についての手塚の思い



著者の手塚治虫コレクション



# ストーリー・マンガの革新性

竹内 オサム  
(たけうち おさむ)

同志社大学教授

## 映画のような画面構成

手塚治虫が試みた革新的な表現について云々する場合、よく「映画的手法」ということが使われる。映画から学んだ表現のテクニックといった意味あい

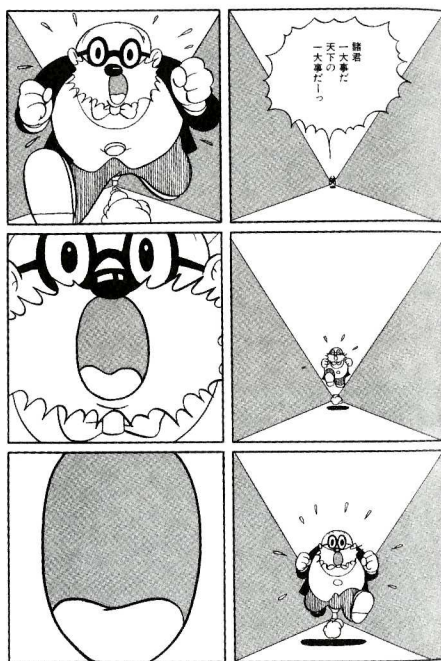
おいてだ。

実際に手塚は、アニメーションも含め多数の映画を観て自らのマンガ創作に生かした。そのため、紙の上の静止画像であるにもかかわらず、映画のような力動感あふれる画面構成を可能とした。

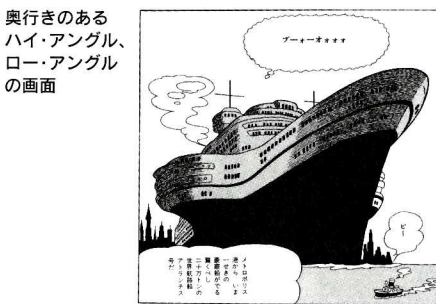
はじめ手塚が参考にしたのは、ドイツやフランスの映画が主だったという。同時に、チャップリンの喜劇映画やデイズニーのアニメにも夢中になる。父親が映写機を所有し、家でフィルムを観ていたためだという。また、少年期にはアニメ映画会にもひんぱんに足を運ぶ。こうして手塚マンガには、その初期から映画のテクニックがコマにあふれることとなった。

## 子ども文化の影響

映画以外からの刺激も役立つ。さまざま



コントラクト・ドローと呼ばれる手法



奥行きのあるハイ・アングル、ロー・アングルの画面

すべて「メトロポリス」(1949年)より

# マンガ産業の広がり「鉄腕アトム」

中野 晴行  
(なかの はるゆき)

ライター・編集者

## アトムとマーチャンダイジング

マンガやアニメは日本のコンテンツ・ビジネスの鍵とまで言われているが、マンガ産業全体の市場規模はどれくらいあるだろうか。おおよその数字ではマンガ出版が五〇〇〇億円弱。アニメが二五〇〇億円強。しかし、マンガやアニメから派生したマーチャンダイジングや海外を含めた放映権や版權収入などを加えていくと、約三兆円規模にまでなるとされている。雑誌連載から単行本化、アニメ化、マーチャンダイジング、海外輸出へと広がっていく日本のマンガ産業は「ワン・コンテンツ・マルチ・ユース型」とよばれる。

この複雑で大きなシステムのはじまり、それは手塚治虫が生んだアトムという

少年ロボットからなのである。

手塚のマンガ「鉄腕アトム」は、一九五一年から雑誌『少年』に連載され、一九六三年には日本初の国産長編テレビアニメになった。マンガからアニメという流れはこのときに生まれたことになる。当時のテレビ制作費は今よりもずっと低く、「鉄腕アトム」のアニメも低予算での制作を余儀なくされた。手塚は、絵を使いまわす「バンクシステム」や、コマ数を減らす「リミテッドアニメ」などさまざまな低予算化策を導入し、これは日本アニメ独特の表現を生むことに繋がった。しかし、それでも予算内にはおさまらない。そこで、考え出されたのがキャラクター・マーチャンダイジングの導入であった。

キャラクター版權を有償で提供する代わりに、海賊版を締め出して権利者の利益を守る、という方式は、アメリカのデイズニーやハンナ・バーベラなどがすでに導入していた。手塚の経営するアニメ・スタジオ「虫プロダクション」でもこれらを参考にしたので。

アトムのキャラクター商品はテレビ・アニメの人氣も手伝って売れに売れた。おもちゃ、文具、食器、衣類、お菓子、アトムのキャラクターのついた商品は日常のいたるところで見られるようになったのだ。

後発のアニメ会社もこの方式を見習

った。今でもキャラクター版權はマンガ家やアニメ会社の重要な収益源になっている。

## マンガは世界語

一九六三年三月、手塚は渡米した。アメリカのNBCテレビと「鉄腕アトム」の放映に関する契約を交わすためであった。五月には契約が成立。九月からは「ASTRO BOY」と改題されて放映が始まった。日本のアニメが世界に飛び出した瞬間である。「鉄腕アトム」はのちに、イギリス、フランス、ドイツ、オ

スピーディなコマ運び、クローズアップやロングを組み合わせた奥行きのある画面、アニメのように弾力あるキャラクターの動き、長大なスケールの物語展開、多数の入り乱れる登場人物たち、演劇のようなコスチューム・プレイ、同じ人物が異なった作品で違った役柄を演じるスター・システムなどなど。これまでにない物語世界を展開することができた。

ただし映画的な表現が、戦前のマンガに皆無であったというわけではない。昭和初期の絵物語作家宮尾しげをの作品には、映画を思わせるクローズアップが多用されている。作者が大の映画好きであったためだ。田河水泡も初期の作品では、映画を強く意識。それと比べてみると、手塚の新しいさは、視点の工夫やクローズアップを駆使し、よりいっそう映画的な画面を構成したことにあるだろう。その技法を、小説に学んだ大河的な物語の構成にのせて展開したところに特色がある。

手塚があらわれなかったとしても、遅かれ早かれ誰かが、戦後に実践したのかもしれない。そこに偶然手塚治虫という才能あふれる作家が立ちあらわれ、革新のピッチが一挙に早まったと理解してよいだろう。戦後のマンガは、このようにしてひとつの方向づけがなされていったのだ。

ストラリア、台湾、香港、タイ、フィリピン、中国などでも放送された。生前の手塚は、「マンガは世界語」と何度も言っていた。絵で表現するマンガや絵が動くアニメは、言語の壁を越えて世界中の人びとが理解し、共感できるという意味だ。今では、日本のマンガとアニメは世界中に浸透して、世界の多くの人びとの共感を呼ぶようになった。

手塚治虫の願いは「鉄腕アトム」によって、実現への大きな一歩を踏み出した、と言ってもいいのではあるまいか。

アメリカNBCテレビでの放映に先立つ紹介記事。アメリカの雑誌『テレビジョンエイジ』1963年4月号から

## 特集 手塚治虫の遺したもの









今春、三月二〇日(木)から九月三〇日(火)にかけて開催した企画展は、従来とは少し趣が違っていた。「いろいろな「おかね」で世界がみる」というこの企画展のために、民博の教職員とその家族の人数が約四〇名(匿名出品者を含む)が、さ

# モノグラフィ

## みんなで持ち寄った「おかね」の展示

近藤 雅樹(こんどう まさき)  
本館民族文化研究部

ともに完成品で、延べ棒はずしりと重たい。一九世紀末期にフランス領インドシナに組み込まれるころまで通用していたと陶貨、代表的な貝貨であるハナピラタ

た秤量貨幣だったのだが…。残念！

展示には、民博が所蔵する大小の石貨



マダガスカル共和国の住民は、10世紀ごろに東南アジアから移住してきた。この1000フラン(アリアリ)と500フラン(同)は旧札。物価変動のため、同じ額面でも新旧価値は異なり、旧札の1000フランは、新札の200アリアリに相当する(個人蔵)



タイ王国、おもに華僑が経営する賭博場でチップとして通用していた。ピア貨という陶製貨幣で、近代国家建設に活躍したラマ5世の時代、20世紀初めごろまでのもの。館蔵品 117点(H126438~126554)のうちの一部



ブラジル共和国の紙幣。50レアル札にはジャガーの一種オンカが、20レアル札にはリオデジャネイロ周辺にのみ生息するゴールデンライオンタマリンが描かれている。表はともに女神ブラジル(個人蔵)

さまざまな国や地域の通貨をわんさかと持ち寄ってくれた。こんな展示会ができる博物館は、楽しい。

みんなが持ち寄ったその数は、硬貨一九〇〇枚と紙幣二〇〇枚(ともに概数)。その大半が、出国前に両替できずに持ち帰った小銭か、あるいは「旅の記念に」との思いを込めて持ち帰った人たちから提供されたものだった。だから、直接手渡しながら「終わったら、お願いだから必ず返してね」と、念を押す人たちもいた。「長期の海外赴任が多かった父が遺したものの。アフリカのおかねがたくさんあるよ」と言って、それらを一晩かけて国別に選りわけてから届けてくれた人もいた。そんな同僚と家族の方たちに感謝、感謝！

さて、整理を始めてみると、なかにはニューヨーク市内の公共交通機関を利用したときの専用コインや、ブラジルで使った公衆電話専用コイン(国内用と国際用の二種)も含まれていた。また、若干だが、ユーゴスラヴィア王国の硬貨など、二度の世界大戦のあいだに建国・滅亡した国々の通貨もあった。大日本帝国時代の紙幣と南方戦線に展開していた陸海軍の軍用手票(略して「軍票」とよんでいた)も、かなりの枚数があった。しかし、ユーロ発行を記念して発売されたコインアルバム一冊(オランダ製、一ニカ国×八種類、九六枚の収納用)以外、コレ

カラガイなどの標本資料も添えた。むかしは世界各地で貝貨が通用していたことを知っている人は少なくないはずだ。でも、紐で連ねた粒のそろったタカラガイや、ビーズ状に均等成形した無数の小さな貝殻を、これまた数え切れないほど幾重にも連ねて太いドーナツ状にしたものを眼前にして、即座に「銭形平次」の銭縄を想起した人は、何人いただろう。また、世界各国の有孔硬貨との共通性に気がついた人は…。

現代人がイメージしている「おかね」とは、まったく姿かたちが異なる「おかね」があることに興味を惹かれた観覧者は多かったようだ。会場では、タイ王国の賭博場で遣い通りに与えたチップだったという陶貨も人気があった。サカナ、カニ、チヨウなどに型抜きした表面に彩色を施したものが「わー、かわいいー！」と、こちらは素直に喜ばれたのだと思う。アンケート結果からは、紙幣のデザインに国情や風土性、また民族社会の伝統が映しだされていることを再認識した人の多かったことが読み取れた。アフリカ諸国の紙幣の多くに、政治家や軍人など偉人の肖像画ではなく、一般人の生活風景が描写されていることに新鮮な感銘を受けたという内容の回答も少なくなかった。

じつは、民博には、藩札が多数眠っている。世界各地の古銭・古紙幣もあれば、

クシヨンの「おかね」は一枚もなかった。それなのに、これだけの枚数が集まった。うれしい悲鳴！

サポートしてくれた情報企画課のスタッフにも感謝しなければ。シンガポールのコインがやたらと多くて驚いた。他の国の通貨でも重複が多く出品しなかった例もあり、申しわけない思いをした。わけても、ベトナムに成立し、一時はラオスとカンボジアを支配した阮王朝(一八〇二〜一九四五年)時代の銀の延べ棒と豆銀を、警備上の不安から出品できなかったのはつらかった。



インドネシア共和国・ギニア・台湾・バヌアツ・バブアニューギニアなどの貝貨コーナー(館蔵品)

一部の国々の現行通貨が標本として登録されている例もある。民族学博物館から、祖先祭祀に不可欠な紙銭も当然所蔵している。「銀行」の用の玩具紙幣や、演劇の小道具である「金塊」なども所蔵している。しかし、これらを展示に使うことは避けた。

この企画展は、貨幣制度の研究成果でも、体系的・網羅的なコレクションの紹介でもなかった。いや、そのような構成にはしなかった。学校の春休みと夏休みの期間を取り込んでいたのである。館の方針としても、とくに、夏休みの自由課題(宿題)を抱えている子どもたち・保護者たちに対するメッセージの発信が可能な展示会の企画・実現が期待されていた。そこで、大勢が持ち寄って築き上げる共同制作に思いいたった。それが、この展示のコンセプトだった。

それともうひとつ、別の動機があった。わたしは、童心にかえて遊ぶ楽しさを、仲間を集めて実践し、確かめてみたくてこの企画展をした。集め、並べてみて、はじめてわかる「発見」がある。そのときの心境を確認したかったのだ。新しい研究が芽生える瞬間を実験的に作りだし、そのときの感動を実感し、リフレッシュしたかった。

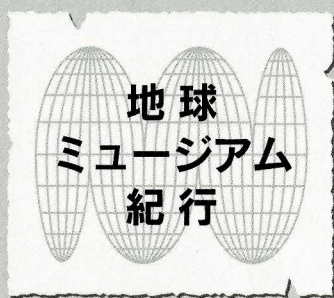
この企画展の実現に協力してくれた同僚たちとサポートしてくれた大勢のスタッフに篤く感謝する。



## ヨルダンで 博物館をつくる

森田 恒之 (もりた つねゆき)

本館名誉教授



国立ヨルダン博物館、  
カラク考古博物館、死海博物館、  
サルト歴史資料館／ヨルダン

学をおもにした研修にあてた。彼らの知見は確実に博物館の認識を変えた。まず学校と提携して自分たちの歴史や自然を知ることの大切さを知らせるイベントを開館前から始めたのだ。その面白さに気付いた若者たちのなかから学芸員志望者があらわれ始めている。

建物の基本設計は政府借款の準備段階で日本側が完成し、展示品や構成が未定のままに展示図面もできていた。異例ではあるが必要経費の算出にはそれも仕方がない。

展示工事が始まると職人が図面どおり大理石の台座を作り、ガラス箱をかぶせて展示ケースを作る。モダ

二〇〇五年一月から三年をヨルダンで過ごした。仕事は国際協力機構(JICA)の技術協力プロジェクト「博物館活動を通じた観光振興」付き専門家兼チーフアドバイザーだ。

ヨルダン政府は外貨獲得のひとつの手段として、二〇〇〇年から日本政府からの円借款で首都アンマン、死海周辺ほか二地域で七つの観光施設整備を進めており、なかに四つの博物館(国立ヨルダン博物館、カラク考古博物館、死海博物館、サルト歴史資料館)が含まれている。既存の施設を全面改装するカラクを除いて、すべて新設である。建築や改修にかかる工事は、借款の窓口である国際協力銀行(JBIC)と業務委託を受けた日本のコンサルタント会社、現地の建設会社の三者が協力して進んでいる(JBICの海外経済協力事業は二〇〇八年一〇月からJICAと統合した)。

当初計画では、これら四つの博物館はすべて昨年中に完成しているはずだったが、諸事情が重なって国立ヨルダン博物館とサルト歴史資料館は工事が遅れ、今年中の開館は困難そうだ、というのが最近漏れ聞く事情だ。

施設作りから始まった事業を運営面でも補充しようとJICAの支援事業が始まった。基本的な博物館事業(収集・保存・展示・教育など)、職員の養成、制度の整備がおもな仕事だった。日本側の担当はわたしを含めて三人。ヨルダン側は既存施設であるカラク博物館の二人を除くと全員が博物館の未経験者だった。

彼の地では、博物館は遺跡の出土物を並べておく場所、というのが一般的理解である。展示の説明までは手が回らないところが多い。

観客に向かつて積極的に働きかける博物館は全く経験がない。何回かのわたしの一時帰任の期間を利用して、ヨルダンの新人たちに同行してもらい日本での見

ンだが位置の変更ができない。ヨルダンでは、構造物は石で作る。博物館のケースは位置固定、が常識なのだ。

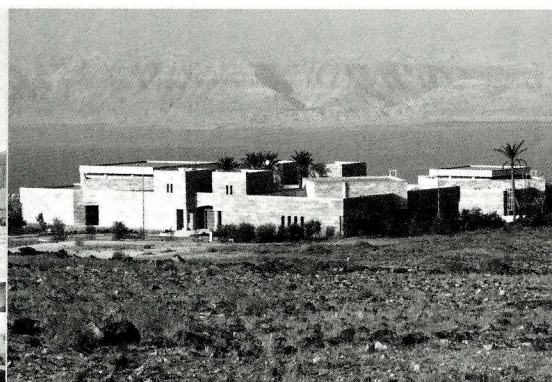
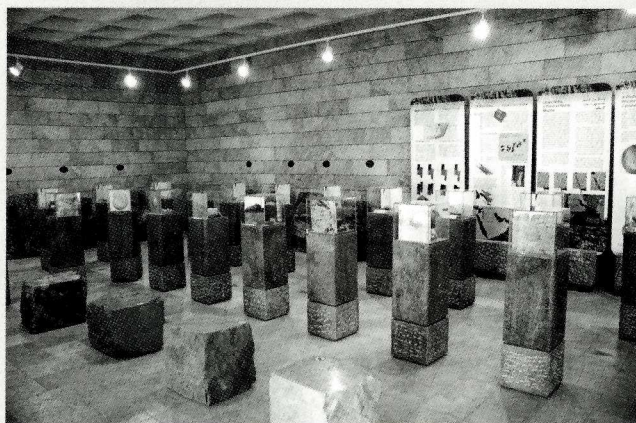
設計図を描いた日本側には、家具としてのケースとベニヤの仮設壁が念頭にあったらしい。双方の思い込みの違いが生んだ結果だった。日本での研修に参加した学芸員たちも可動展示の必要を理解したがすでに遅かった。わたしには国際協力での異文化理解の必要性を再認識するまたとない事件だった。

今、ヨルダンの博物館は世界に目を向けて新しい一歩を踏み始めている。



2007年12月時点で建設中の国立ヨルダン博物館。外装は石で化粧張りするのが公共建造物の常である

死海博物館の内部。石の台座に乗った展示ケースは美しいが移動が難しい



死海展望台の施設。死海博物館はこの建物の一部を占めている。死海の向こうにイスラエルの丘陵が見える



## 鳳凰

水上操り人形(不死鳥)(標本番号H151620、高さ/51cm 幅/49cm 奥行/84cm)

櫻永 真佐夫(かしなが まさお)

本館民族社会研究部

幾多の河川や水路と、降りしきる雨の水で潤いあふれるベトナム北部の红河デルタには、水上人形劇を、数百年以上にわたって伝えている村がある。池のなかに設置された劇場では、すだれの向こう側にいる人形使いたちが、それぞれ二本の長い棒で人形を操る。豊穰祈願とも結びついて上演される。写真の人形は、劇の役者である。

鳳凰の舞は、ベトナム戦争中に指導層が庶民の娯楽のために建てたハノイの劇場で、よく知られた演目である。二〇世紀初頭まで続いた王朝時代、鳳凰は太平の象徴であった。子宝に恵まれた鳳(オス)と凰(メス)の優雅な舞い姿は、平和を願う人びとの心に響いたに違いない。

鳳凰の姿は、前は麟りん、後はシカ、くびはヘビ、背はカメ、尾はサカナ、あごはツバメ、くちばしはニワトリに似て、五色絢爛けんらんという。

ちよつと想像しにくいのが、中華文化圏各地では古代からさまざまにイメージされてきた。身近なところだと一万円札にもある。

ベトナムでもこの瑞鳥ずいちようは、古くから陶磁器、屋根飾り、祭壇の装飾などに用いられてきた。中国にならつて竜を王権のシンボルとしてきたが、王朝末期には鳳をシンボルとする皇帝もあらわれた。竜と鳳凰は装飾で対になっていることが多い。どうも鳳凰は、竜に対して脇役であることが多いようである。

インドシナ盆地民の黒タイは、竜を水の精、ツバメを地の精とみなし、くにの安定のために両精をまつっていた。このツバメは鳳凰と同義かもしれない。鳳凰は朱雀(南)の方角を司り火の精とされるが、水の対立項という点では、地と火は同列である。また、男性器のことを竜とよび、女性器をツバメ

とよぶ。そういえば、手塚マンガの「火の鳥」では母性的側面が強い。鳳凰は、いのちや再生産のシンボルでもある。







# 子連れフィールド・ワーカー奮闘記 ルーマニア篇 トランシルヴァニアで息子と暮らす

大塚 奈美 (おおつか なみ)

総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程

## フィールドで初育児

わたしのおもな研究対象はハンガリーの民俗舞踊。都市での娯楽の場や舞踊団の練習場、農村の娯楽の場や通過儀礼に伴う踊りなど、さまざまな場面に於ける調査をおこなっている。博士課程進学後、子どもに恵まれもうすぐ三年になるが、現在は、ルーマニア・トランシルヴァニア地方を中心に、調査を続けている。ハンガリーの踊りの調査をするのに、なぜルーマニアなのかと思われる方もいらっしゃるかもしれない。トランシルヴァニア地方は第一次世界大戦後にルーマニア領となったため、現在も多く、ハンガリー人が暮らし、ハンガリーの古い文化が残っている地域なのである。

さて、わたしが現在調査の拠点にしているのは、人口四〇〇〇人程の小さな村だ。住民の大多数はハンガリー人。畑でジャガイモ、トウモロコシ、マメなどの穀類やその他の野菜、果物などを作り、ウシ、ウマ、ブタなどの家畜やニワトリ、シチメンチヨウ、ガチヨウなどの家禽類を飼育するのがここでの一般的な暮らし。出産前にも調査などで訪れたことはあったが、子どもが五カ月のころから、断続的に長期滞在の調査を始めた。農村での短期の調査は何度もしたが、生活、生活をするのは初めてである。慣れない農村での家事と初めての子育てをしながら、



古い写真の収集の現場で

でもかなりの量になるし、抱っこをした手をつないだり、両手がふさがってしまふ。公共交通機関での移動が困難なときは運転手を雇って移動することもありますが、大学院生にとっては大きな出費。幸い、息子は乗り物が大好きなので、移動は苦にならず大喜びである。もちろん、毎日遠出をするわけではなく、普段は、時間の許す限り家での作業や村内での調査をおこなう。村では一般的に人と人とのかわりが強く、人口も少ないために村の人はほぼ全員が顔見知りで、出会ったときにはあいさつをしたり世間話をしたりするのが普通。子どもといると、お宅に入っていたりすることも、現地での生活の実態を垣間見る機会ともなっている。

生まれて間もなく大きな移動を繰り返すことになった息子。調査地の畑や動物は格好の遊び場、遊び相手でもある。子どもは何でもよく見ていて、野菜や果物をとってきたり、卵を集めたり、薪運びをしたり、特に教えなくても自分なりに仕事を見つけては楽しんでお手伝いをしていく。会う人は皆話しかけてくれるので、現地語でのコミュニケーションの機会も多い。わたし自身の育った環境とはまったく異なっており、戸惑うことも多いが、子どもはすぐに適応して楽しむ力も持っている。それぞれの地のよい点を吸収し、それが彼の今後の人生においてよき思い出・財産となることを願っている。

## 息子の財産に

調査において、重い機材をもって移動することに慣れてはいたし、母乳育児のため、ミルク持参の負担がないのは幸運だったと思う。それでも、おむつや着替え、おもちゃなど、子どものための荷物だけ



人生は  
決まり  
文句で

アイヌ アナクネ ピリカ  
aynu anakne Pirka

佐々木 利和 (ささき としかず)

本館先端人類科学研究部



ミンバク オッタ カムイノミ  
民博 で 神祈り (2007年11月 於民博前庭)

## アイヌ研究を通して

アイヌ口承文芸の研究で知られる、萩中美枝さんに『アイヌ文化への招待』という好随筆集がある。萩中さんはアイヌ語学者知里真志保氏の奥様であられた。そんな関係もあつてか、この随筆集には

知里氏とのさまざまな思い出を綴った一節がある。

標記のアイヌ語はそのなかに見えることばである。

アイヌ アナクネ ピリカ aynu anakne Pirkaとは「アイヌ・は・うつくしい」という謂である。旧制第一高等学校

校時代、知里氏はその出自ゆえにさまざまな悩みを抱いていた。そのころの日記に見えるという「アイヌは呪われている……」の一条は強烈である。アイヌの形質的な特徴が大きな負担となつてのしかかる。そして自分の意思や思いとは関係なくふりかかる差別と偏見(残念ながら現在もある)。

萩中さんという。シヤモ(和人)による「同化はことばをうばい、アイヌがアイヌの神に祈ることを忘れさせた」と。そして「アイヌ アナクネ ピリカ」は知里氏が「自分のアイヌ研究を通して、アイヌ研究のなかでいたかったのだ」とも。

## 人間・は・うつくしい

ひるがえつて、昨年九月には国連総会で先住民族の権利に関する国連総会決議が採択され、本年六月には衆・参両院本会議でアイヌ民族を先住民族とすることを求める決議が全会一致で採択されている。そしてその決議の下、内閣官房に「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」が設けられている。

その第二回、北海道ウタリ協会理事長の加藤忠委員は報告のなかで、人間文化研究機構に触れ、民博を除いては「アイヌ民族関連の研究スタッフがおらず：人間文化を取りあつかうのであれば、同じ人間のアイヌを仲間はずれに」せず、国家プロジェクトとしてとらえるべきであると述べられた。

加藤氏のこの指摘は重要である。いうまでもなく日本の人文・社会の学問体系のなかでアイヌは忘れられているといつていい。日本歴史研究においても、日本文学研究においても、日本語研究においてもアイヌの姿を認めることは困難である。学問の世界においてすらアイヌは差別されているのである。

アイヌの原義は神に対する人間である。知里氏が願った「アイヌ アナクネ ピリカ」が本義の「人間・は・うつくしい」と読まれる日が本当に早くおとすれるように願つてやまない。

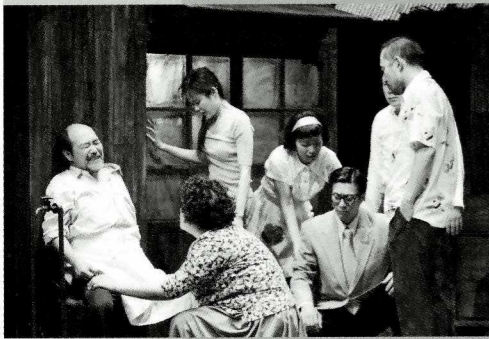




駐済州日本総領事館主催の韓国語落語公演(10月29日)  
(提供:松竹芸能)



東海朝鮮歌舞団のメンバーと(提供:松竹芸能)



新国立劇場  
日韓合同公演「焼肉ドラゴン」  
背広姿が銀瓶さん  
(撮影:谷古字正彦)



高座で落語を演じる笑福亭銀瓶さん(撮影:大西二士男)

「笑福亭銀瓶の出演情報」<http://www.kdn.ne.jp/~aohyon/ginpei/>

劇中では朝鮮語が飛び交う。  
稽古中から、韓国の役者、スタッフたちとのやりとりが銀瓶さんにとっては生きたことはを学ぶ限りなく貴重な時間となった。  
孫が朝鮮語で落語をやることをこのほかよるこんでくれたハルモニ(おばあさん)が東京公演中に亡くなった。通夜も葬式も行けなかったため、ソウル公演にはハルモニの写真をお守りにもって行った。  
銀瓶さんは今も忙しい仕事の合間に時間を作って、朝鮮語の勉強に余念がない。少しずついえることが増えていくのが楽しくて仕方がない。確実にことばが身につけてきていることを実感している。  
朝鮮語で落語をやるときの銀瓶さんは生き生きしているといわれるし、自分でもそう思う。朝鮮語でやることで、日本語の落語にも深みが出てきた気がする。  
「ウリマル(私たちのことばの意)で落語をやるようになって、韓国語の美しさがかかるようになりました。そして日本語も美しいと思うようになりました。ほくたちが在日は韓国語と日本語の両方の美しさがある存在なんです」と銀瓶さんは言う。  
落語がもっている笑いのパワーを、今日も銀瓶さんはふたつのことばで全開させている。

## 外国人と生きる

## ふたつのことばで落語がもっている笑いのパワー全開!

藤井 幸之助 (ふじい こうのすけ)

神戸女学院大学非常勤講師

### 在日コリアン三世の落語家

笑福亭銀瓶さんの職業は落語家。この一〇月で四一歳になった。大阪を中心に高座、テレビ、ラジオ、で意欲的に活躍している。

生まれ育ったのは神戸で、民族名は沈鍾一(シムチヨウイチ)といった。祖父母の代に日本に渡ってきた在日朝鮮人三世にあたる。ずっと日本の学校に通い、朝鮮語もわからなかった。

成績優秀だった銀瓶さんの将来の夢は学校の先生だった。しかし、外国籍であることから先生になることは困難だと思ひ、アボチ(父)の「エンジニアになれ」というすすめで、工業高等専門学校(高専)へ進学する。

民族名を名のようになったのは、高専二年のとき。たまたま参加した朝鮮奨学会のサマースクールで、民族名で生きる同世代の同胞に出会ったのがきっかけだった。

しかし、学生時代、将来への具体的な夢をもてないままであった。卒業後の進路に悩んだあげく、人を笑わせることを仕事にできればと、一九八八年に笑福亭鶴瓶さんに弟子入りした。

当初、タレント志望であったが、師匠の芸の深さが落語から来ていることがわかり、同時に落語のおもしろさを感じ、次第に落語家を目指すようになった。

### 朝鮮語で笑いを伝える

銀瓶さんは今、日本語だけでなく、じつは朝鮮語・韓国語でも落語をはじめめている。日本人の多くにとつて落語は日本語で語られるものである。にもかかわらず朝鮮語で落語をしようと思ったのには、落語のおもしろさを朝鮮語でも伝えたいからだった。自分の特色もそれでこそ出せると思った。

ラジオのレポーターとして、みんなよく特別展二〇〇二年ソウルスタイル 李さん一家の素顔のくらし」の取材で韓国に行った。ソウルに李さん一家を訪ねたが、このときはことばがまったくわからず、通訳を介してインタビューすることが非常にもどかしかった。

二〇〇四年秋、ときあたかも韓流ブームの最中。ピートだけが主人公の在日朝鮮人を演じる映画「血と骨」の冒頭の部分を観て、自分のなかにある朝鮮の血が騒いだ。

「やっぱりことばがでないとアカン」。早速、NHKハングル講座のテキストを買ってきて勉強しはじめた。久々の勉強だったがスラスラ頭に入ってくる。この調子なら、そのうち話せるようになると思った。

「自分は落語家だから韓国語で落語をすれば、もつと語学の勉強になるし、日本のすばらしい文化である落語で韓国人を

楽しませたい」と思った。

「動物園」というネタを知り合いに翻訳してもらい、一カ月半で丸覚えした。それでも、落語のおもしろさが、ことばをこえて朝鮮語でも伝わるのか、不安でもあった。

二〇〇五年二月、朝鮮語のわかる人に聞いてもらおうと、大阪朝鮮高級学校ではじめて披露した。結果は生徒たちに大ウケだった。なにより自分の朝鮮語が通じたことがうれしかった。そして、落語がことばをこえたことも。

二〇〇五年秋、銀瓶さんははじめて韓国ソウルで日本語を学ぶ大学生の前で日本語と朝鮮語で落語をやった。そこでも笑いがとれた。それから毎年、韓国で落語会をしている。去年はみんなよく特別展で取材した李さん一家も見に来てくれて、今度は朝鮮語で会話ができた。

演目も「動物園」時うどんや「宿題」(作:桂三枝)と、一年に一作ずつ増やしている。今年は四作目の「犬の目」だ。

### 両方の美しさがわかる存在

銀瓶さんにとつて、今年はまだ特別な一年になった。

四月に東京で、五月にソウルで日韓合同公演の演劇に出演したのだ。一九七〇年前後の、関西のとある焼肉屋を営む在日朝鮮人家族と隣人たちの人間模様を描いた「焼肉ドラゴン」(作:鄭義信)だ。



# 歳時 世相篇

⑨

## 【12月の犠牲祭】

### 動物たちの受難

新免 光比呂（しんめん みつひろ）

本館民族文化研究部

#### クリスマスのブタ

クリスマスを間近に控えた二月、ルーマニアの多くの村々ではブタの悲しげな鳴声が響き渡る。春の市場で手にいれ、ほぼ一年間、手塩にかけて育てたブタを食用に屠殺する季節がやってきたのだ。

冬の朝は寒い。しかし、ブタは運命を予感するのが、農家の主人と手伝いの人々が近づくと悲しげな声をあげて逃げまどう。数人で大汗をかきながらブタの巨体を押さえつけ足をしばり、そして喉を掻き切る。

次に毛を焼く作業が始まる。これには二通りの方法がある。竈で大きな火をおこし、そのなかでいっぺんに毛を焼いてしまふ。あるいは、火を噴く手回しのふいごを用いる。これで丹念に毛を焼いていく。

それが終わると、ブタを頭から尾まで真つ二つに両断する。ここで作業を見守る子どもとネコにご褒美である。尻尾と耳を切り取り、かじるのだ。火であぶられた軟骨は、こりこりとして意外に美味しい。あとは、ブタの巨体をななひとつ無駄にすることなく丹念に解体していく。皮をはぎ、肉を切り出す。内臓を取り出し、よく洗う。腸はきれいに洗って、ソーセージの皮にする。そして骨や皮から肉をそぎ落としてソーセージのなかにつめるミ

ルコニーでヒツジを解体しているのを見たこともある。まさに庶民の生活空間に根付いた行事なのだ。

一方、ムスリム住民の多い諸国では、年によっては冬にヒツジが受難の時を迎える。イスラーム暦（ヒジュラ暦）の一月一〇日から四日間にあたりおこなわれるイード・アル・アドハ（犠牲祭）である。犠牲祭の日時はイスラーム暦が太陰暦であるために、現代のヨーロッパ暦（グレゴリウス暦）では毎年一〇日ほど日がずれて一定しない。この日は世界中のムスリムによるメッカへの巡礼の最後を締めくくり、アブラハムが息子をアッラーへの犠牲として捧げた事を記念する。おそらく世界中で何万匹ものヒツジが、あえない最期を遂げる。

それが終わると、ブタを頭から尾まで真つ二つに両断する。ここで作業を見守る子どもとネコにご褒美である。尻尾と耳を切り取り、かじるのだ。火であぶられた軟骨は、こりこりとして意外に美味しい。あとは、ブタの巨体をななひとつ無駄にすることなく丹念に解体していく。皮をはぎ、肉を切り出す。内臓を取り出し、よく洗う。腸はきれいに洗って、ソーセージの皮にする。そして骨や皮から肉をそぎ落としてソーセージのなかにつめるミ

社会では想像できない家畜とのつきあい方だ。アブラハムによる供犠の物語は、旧約聖書「創世記」の一節に感動的に描かれている。アブラハムが神の命令により、息子を生贄に捧げようとする。わが子の首にまさに刃をあてようとしたとき、神はいう。おまえの信仰は証しされた。息子の代わりにヤギを屠るがよい、と。これが身代わりの犠牲（贖罪の犠牲）の始まりである。

トルコのコンヤという都市で、かつて犠牲祭を迎えたことがある。犠牲祭そのものは旅行者がかかわるものではなく知

#### 家畜文化と宗教

ヒツジやブタなどの家畜動物を屠る人びとを見ると、キリスト教もイスラームも動物の屠殺という点で同じ性格をもつことを実感する。日本のような農民

大切なものを捧げるという点では、ほとんどすべての宗教は共通している。喜捨であれ、お布施であれ、わが身の一部を捧げ信仰をあらわす行為だからである。ただし、動物供犠というのは、さすがに生々しい。

そこらから生じた、事実上、西ヨーロッパを標準とする圧力のもとでは、あからさまな動物の屠殺ということが、動物愛護の観点からも、血なまぐさく不衛生という点からも好ましくないのだ。すでに加盟している国々でも、手作りチーズすら不衛生だと問題になった。したがって、EU加盟を熱望するトルコでは公共の場で屠殺をしないようにと指導されているらしい。めでたくEUに加盟したルーマニアでも、よき加盟国メンバーとしてふるまうためには配慮が必要とされる。おそらく、西ヨーロッパ標準のもとでは、家畜は動物愛護の精神をもって苦痛なく合理的に屠殺されるべきなのだ。それが神から自然界の管理者としての特権的な立場を与えられたと信じるキリスト教徒の優しさなのだろう。

動物供犠に関する研究は、ヨーロッパの民族学のなかでも古くからある。もともとキリスト教徒の供犠への関心は深い。イエス自身が贖罪の生贄としての性格をもつからであろう。つまり、十字架の上の死によって罪深き人間と神との和解を実現したとみなされるということだ。いずれのお祭りも、その先行きにEU加盟が暗雲をなげかけている。ルーマニアもトルコもEU加盟を念願し、コペンハーゲン基準といわれる加盟基準の遵守に努めてきた。政治的基準、経済的基準、EU法の総体の受容を骨子とする。さらにアキ・コミュニテール（EU加盟国が

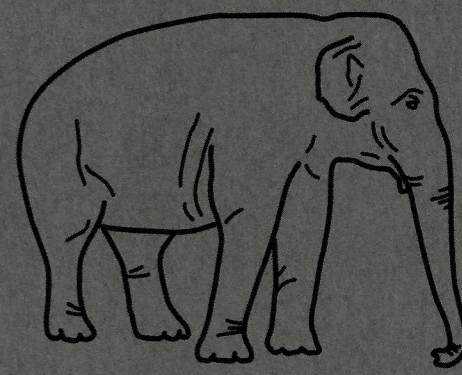
EU加盟を熱望するトルコでは公共の場で屠殺をしないようにと指導されているらしい。めでたくEUに加盟したルーマニアでも、よき加盟国メンバーとしてふるまうためには配慮が必要とされる。おそらく、西ヨーロッパ標準のもとでは、家畜は動物愛護の精神をもって苦痛なく合理的に屠殺されるべきなのだ。それが神から自然界の管理者としての特権的な立場を与えられたと信じるキリスト教徒の優しさなのだろう。



老人と羊皮の山。どのようにして集められ、どこへいくのか



生きもの  
博物誌  
【アジアゾウ】



武器になった生き物

山中 由里子  
(やまなか ゆりこ)

本館民族文化研究部

傷を負ったゾウは暴れ狂い、敵も味方も見境なく蹴散らし始めたために戦列は乱れ、結局インド軍は退陣する。

わたしが研究するアレクサンドロスにまつわる伝説のなかで、この戦象の場面はハイライトのひとつである。アレクサンドリアで紀元後三世紀までに成立したとされるギリシア語の「アレクサンドロス物語」では、アレクサンドロスが持ち合わせていた銅像を熱してゾウの前に投げ出し、それを鼻でつかんだゾウが大火傷をして退散したという話になっている。

また、「アレクサンドロス物語」の影響を受けたであろう九世紀のアラブの歴史家ヤアクービーは次のように書いている。

アレクサンドロスは不意を討って国に攻め込んだが、ポロスは反撃した。ポロスは戦象を投入したのである。その大きさはアレクサンドロスをはるかに上回るものであり、対抗の仕様がなないように見えた。しかしアレクサンドロスは銅像を作らせた。なかはナフサと硫黄で満たし、火を入れ、速力を高め、外側には武器を施した。軍の先頭を走らせ、敵軍が近づくと、ゾウに向かってけしかけた。ゾウは鼻で襲い掛かり、銅像に巻きつけた。ところが鼻は焼け焦げ、ついにゾウどもは逃げ出した。

焼き豚特攻隊で対抗

ローマの著述家アエリアノス(二七五年前後)の『五年ごろの動物の本性について』にも気になる記述がある。アレクサンドロスの後継者の一人アンティオクは、

者の舞台裏話によると、あの四足歩行の巨大な装甲車はゾウの動きをもとにしたストップモーション・アニメーションだというから、あれもやはり武器と化したゾウなのである。

塞であつたわけである。一方、機敏な動きができず、パニック状態になると制御できなくなるという難点もあつたらしい。

戦象が登場する歴史上の有名な合戦といえば、ヒュダスベス河畔(現ジェルム川、バキスタン)におけるアレクサンドロス大王とインド王ポロスの戦い(紀元前326年)がまず挙げられる。インド側には二〇頭ほどのゾウがいたとされ、アレクサンドロスの苦戦ぶりはアツリアノスやクルティウスなどの歴史家が詳細に記している。ポロス軍の戦列正面に配された戦象集団に、さすがのアレクサンドロスも初めはたじろぐが、敵の左翼と背後からまわり込み、飛び道具で象使いを狙い、斧や鎌でゾウの足や鼻を攻めた。激戦の末に御者を失い、

戦象という武器

戦車ならぬ「戦象」は、インド、東南アジア、古代地中海世界において、敵を威圧し戦列を破砕するための、強力な生体兵器として用いられた。騎兵や歩兵よりもずっと高い位置から、しかも移動をしながら矢を放つことができる。さらに皮膚が比較的分厚いため、ウマなどに比べ矢や槍に強かった。まさに動く要

ノスはメガラ人と戦った際に、戦象を動揺させるために、ブタに液状のタールピッチを塗り、火をつけ放した。火達磨となってキーキーと鳴きながら走り回るブタにゾウが怯えたという。

こうした古代、中世の戦象のエピソードを読むと、なぜか「スターウォーズ」帝国の逆襲で帝国軍の「AT-AT」(全地形装甲トランスポート)を反乱同盟軍の勇士たちが撃退する場面を思い起こすのである。映画製作



戦うゾウの名残。  
インドのチェス(H92921)



スリランカ中央高地の働くゾウ(提供:杉本良男)



スリランカの町中をおとなしく歩くゾウ(提供:池谷和信)



(提供:池谷和信)

アジアゾウ (学名: *Elephas maximus*)

哺乳(ほにゅう)綱長鼻目ゾウ科。インド、スリランカ、ミャンマー、スマトラ島、ボルネオ島北部に分布。体長は500~640cm、尾の長さは100~150cm、体の高さは200~300cm。体重はオスは平均4~5トンで、メスは2~3トン。胴体は中央部でもっとも高くなる。アフリカゾウに比べるとやや小型。人間によるゾウの飼育と利用の歴史はかなり古いとされる。モヘンジョ・ダロからは、すでに紀元前2500~前1500年にアジアゾウを家畜として使用していたことを示唆する出土品が見つかっている。





フィールドで考える

# 呪術から見る 民族関係 —東マレーシアの華人と先住民

市川 哲 (いちかわ てつ)

本館機関研究員

## 日常での関係を研究

マレーシアはマレー半島に位置する西マレーシアと、ボルネオ島北西部に位置する東マレーシアというふたつの地域から構成される国家である。わたしは東マレーシア側のサラワク州に居住する華人(中国系移民)を対象としたフィールドワークをおこなっている。調査テーマのひとつは、華人とマレーシアの他の民族、特に先住民との関係についてである。

マレーシアの華人はこの国の総人口の四分の一を占める。マレーシアにおける華人と他の民族との関係にはこれまで多

多くの研究者が注目してきた。だがそうした研究は政治経済的な問題をテーマとすることが多く、日常的なレベルでの華人と他の民族との関係は十分に研究されてこなかった。

## 先住民の呪術のイメージ

マレーシアは典型的な多民族国家である。特に東マレーシアには数多くの少数民族が居住している。サラワク州の華人も当然、このような少数民族とさまざまななかたちで交流することになる。だが都市部に居住する華人のなかには、おもにボルネオ島

内陸部に居住する先住民と接触する機会がそれほど多くない者も存在する。そのためか、このような華人のなかには、先住民に対しエキゾチックなイメージをもつ者がいる。そしてそのイメージは、しばしば呪術的な色彩を伴うのである。

斜面を切り開き焼き畑を作るといふ生活を送ってきた。シブに住む華人の友人たちに言わせると、このような上流域の先住民が、下流から訪れる華人にしばしば呪術をかけるというのである。特に食べ物に呪術を混入させることにより相手の理性を麻痺させ、正常な判断をできなくさせるらしい。そのような状態で先住民女性と恋に落ち、ロングハウスのなかにとどまらざるをえなくなる状況に陥ることを友人たちは恐れているようであった。

二〇〇七年、わたしはラジャン川下流の町シブから船に乗り、七時間ほど遡ったところにあるブラガという町を訪問した。ラジャン川はサラワク州内で最大の河川であり、上流域にはイバンやカヤン、クニヤーといった先住民が多数居住している。これらの先住民は、現在では都市部に出稼ぎに出たり、林業会社の伐採キヤンプで働いたりしているが、もともとは川沿いにロングハウスとよばれる高床式の長屋風の家を建てて居住し、山の

斜面を切り開き焼き畑を作るといふ生活を送ってきた。シブに住む華人の友人たちに言わせると、このような上流域の先住民が、下流から訪れる華人にしばしば呪術をかけるというのである。特に食べ物に呪術を混入させることにより相手の理性を麻痺させ、正常な判断をできなくさせるらしい。そのような状態で先住民女性と恋に落ち、ロングハウスのなかにとどまらざるをえなくなる状況に陥ることを友人たちは恐れているようであった。

ている。彼女はその学校で、一人の先住民の男性教師と知り合った。彼女はその男性教師から言いよられたが、それを断った。だがわたしの友人たちによると、彼はその後、ひそかに彼女の食べ物のなかに呪術を混入させて彼女の気を引こうとしたらしい。シブに一時的に帰っていたある日、彼女は突然正気を失い、体中に黄疸が出たそうである。彼女の家族は急いで病院に連れて行ったが、病因は不明だった。仕方なく、シブに住む先住民の呪術師に頼んでなんとか呪術を解いてもらったとのことである。その後、彼女は呪術を恐れ、ブラガに戻らないこととしたらしい。

経済的な取引、あるいは自分たちが属する民族のアイデンティティといった部分ばかりが目やゆきがちである。だがこのような集団としての民族関係だけでなく、華人や他の民族の個人個人が話す内容に注目すると、都市部と農村部、よく知っている土地とよく知らない土地、といっ

たさまざまな要因がお互いの民族イメージをかたち作っていることがうかがえる。東マレーシアの華人から聞いた先住民とその呪術に関する話には、日常的に頻りに接触するわけではない、よく知らない土地に居住する人びととの民族関係や、お互いともイメージを考察するうえで

のヒントがあるように思われる。下流に住む華人たちの呪術に関する話は、よく知らない土地に対する不安感が増幅させている部分があるのかもしれない。このような具体的な日常生活の場で見られるエピソードから、民族関係をとらえなおしてゆきたいと考えている。

たある日、彼女は突然正気を失い、体中に黄疸が出たそうである。彼女の家族は急いで病院に連れて行ったが、病因は不明だった。仕方なく、シブに住む先住民の呪術師に頼んでなんとか呪術を解いてもらったとのことである。その後、彼女は呪術を恐れ、ブラガに戻らないこととしたらしい。

## 未知の土地への不安

現実には、上流の町やロングハウスは、呪術に満ち溢れた世界ではない。現在、サラワク州の多くの先住民はキリスト教を信仰しており、むかしから伝わる宗教や儀礼も次第に廃れつつある。多くの若者は教育や仕事のために都市に移り住んでいる。林業企業の従業員のなかには、パプアニューギニアやソロモン諸島といった国外の伐採地に赴任する者まで出てきている。アンテナさえあれば衛星放送も観ることができるし、若者たちはみな携帯電話をもっている。

民族同士の関係は、政治的な対立や経

シブの町並み。華人が多いため、中国語の看板が目立つ



先住民のロングハウス。高床式の長屋に数十家族が暮らす



華人の店で野菜の種を買う先住民女性



# 研究者と話そう

■時間：14:30～15:30(予定)

■常設展示場観覧料が必要です。

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。



輿のなかに座って花婿の家に移動する前の花嫁。  
安徽省宿州市(2008年8月8日)

実施日・話者・話題・場所

※都合により、予定を変更することがあります。

12月7日(日)

韓敏(民族社会研究部准教授)

漢族の花嫁の興

於:中国地域の文化展示

12月14日(日)

朝倉敏夫(民族社会研究部教授)

キムチに聞く

於:朝鮮半島の文化展示

12月21日(日)

鈴木七美(先端人類科学研究部教授)

デンマークの余暇活動と民衆学校

於:常設展示場入口

編集後記

今年もいよいよ年の瀬をむかえる。忘年会のシーズンでもあるが、わすれがたい記憶としては寿入り餃子事件からはじまって、原油価格の高騰、北京オリンピック、金融危機、そしてオバマ氏の大統領当選などがあり、話題に事欠かない一年であった。民博では30周年の記念事業が無事終了し、『月刊みんなく』では編集長の交代があった。

その新編集長は手塚ファンと見えて、12月号は手塚治虫の生誕80年を記念する特集になった。わたしは手塚治虫の講演を一度だけ聴いたことがある。20年以上も前のことで、場所はサンパウロの日伯文化協会の講堂だった。その講演のなかで、手塚治虫はアトム誕生秘話にふれ、もともとは女の子のキャラクターだったことを明かされた。アトムの赤い靴はその名残であろうか。詳細は記憶にないが、その話だけはアトムと聞くと、反射的に思い出される。

ところで、本号の「歳時世相篇」によると、ルーマニアでは12月になるとブタの悲鳴があちこちから聞こえてくるそうだ。日本では何が聞こえてくるのだろうか。焼芋屋の売り声か、ジングルベルのメロディーか、それとも金融危機のおおりにくった経営者やサラリーマンの悲鳴か。何はともあれ、どうぞよいお年をおむかえください。(中牧弘允)



交通案内

■大阪・千里万博記念公園内

- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れられます。



次号予告/1月号特集  
ウシ

2008年12月号 第32巻第12号通巻第375号  
2008年12月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1  
電話06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎  
庄司博史 中牧弘允 三尾 稔  
山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ  
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます